

支那ありては内之届私を書武書と四留ありては後
 洲の邊と稱りり由河内進有る未之書私山内
 ありては内之届私を書武書と四留ありては後
 洲の邊と稱りり由河内進有る未之書私山内
 ありては内之届私を書武書と四留ありては後
 洲の邊と稱りり由河内進有る未之書私山内

弘化二年己四月

異國私の由を——よおん

- 白米 武拾俵四斗入
- 蕎麥 武拾俵
- 小菱 武斗
- 大根 百把
- 阿部茶 五斤
- 胡蘿蔔 武拾把
- 阿部茶 五斤 雄三十三羽 十七羽
- 松薪 武百把
- 鶏 五羽 雄三十三羽 十七羽
- 板丸太 但長サ十二尺 中程九三三尺 祀三本
- 立木板 但長サ三尺 祀三本
- 八寸四 拾枚
- 吸お椀 十
- 箱 一本
- 繻 武枚
- 落广芋 武拾俵
- 大根 二十把
- 右之通

三り子なる浦々湊居合し船く侍りては所方より異私
 ありては内之届私を書武書と四留ありては後
 洲の邊と稱りり由河内進有る未之書私山内

異國私 長サ拾九尺五尺五寸 横幅四尺四寸深サ三丈

一 櫓 長サ十四丈三尺 一 拵 長サ拾一尋五尺
 一 織帆 十三卷 返時廿八卷 一 乗組人 叔廿八人 内黒坊七人 右内大工 鑓治 桶者
 一 南亞黒利加 千八百四十三年 十月十二日出帆
 一 日本天保十四年 卯十一月十二日 當リ 己三月 己三年 己三月
 一 國名 南亞黒利加 一 所 一リケ
 一 船名 アンケリヤ 一 取頭名 カビク
 一 匠名 コツフリカワハ 一 料理人 シフリ
 一 名者 ハベリ 一 黒坊 ベリス
 一 炊 チヨチ 一 桶工 カバ
 一 大工 フウレケ 一 拵 イハレ
 一 拵 ハシキヤ 一 船 オウ
 一 米 ウイス 一 餅米 ライン

一 菓子 バン 一 喰吏 カム
 一 夜を後吞イヲ ハツハイハイ
 一 八丈島 ハチ 一 江戸 ジヤトウ
 一 大坂 フサカ 一 佐藤 徳登 杉者 南郡
 一 仙臺 隆浩 右六回 皆本邦ノ音ニ等シ
 一 四回 シユ
 一 1 の 2 3 4 5 6 7 8 9 10
 フラシ 2
 トラ 3
 テイ 3
 ホウ 4
 ヲ 5
 セキ 6
 セム 7
 アイ 8
 ナイ 9
 テン 10

吳玉 秘に 例に 傍に 仲らる
 考書 余但

松平 忠房 存
 例に 傍に 仲らる
 五島 五八
 市川 半六